

## 暖エコライフアンケート結果（2010年版）

### 0. 回収数

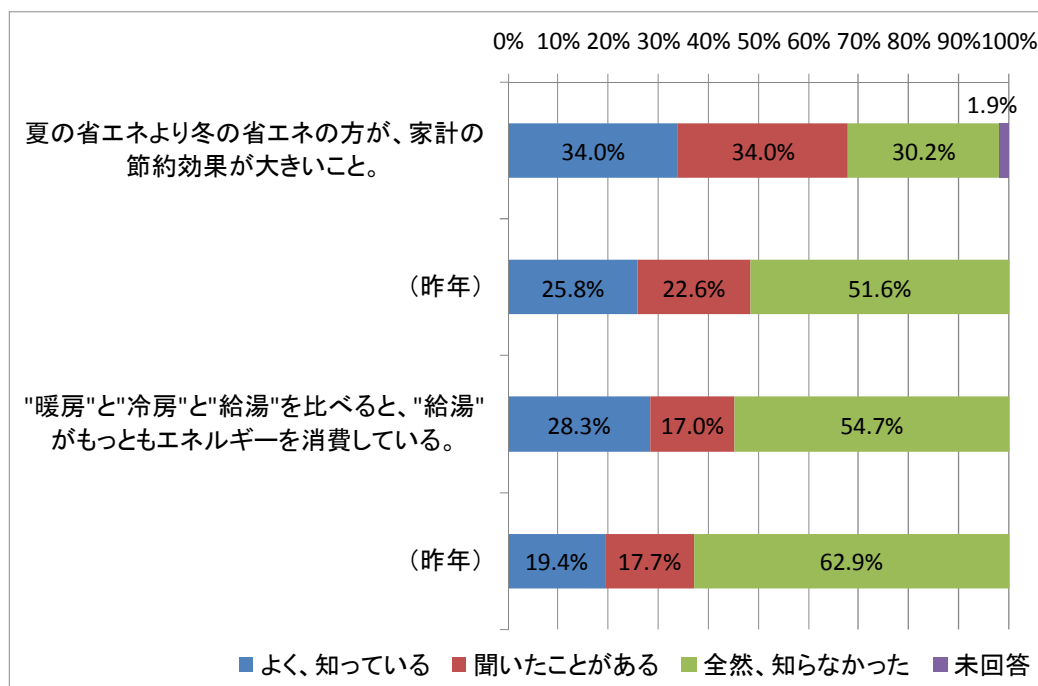
アンケート回収数 53件

(内訳)

	男性	女性	無回答	合計
20歳以下	3	2		5
20-29歳	2	1		3
30-39歳	2	5		7
40-49歳	1	4	1	6
50-59歳	5		1	6
60-69歳	7	8	1	16
70歳以上	5	4	1	10
合計	25	24	4	53

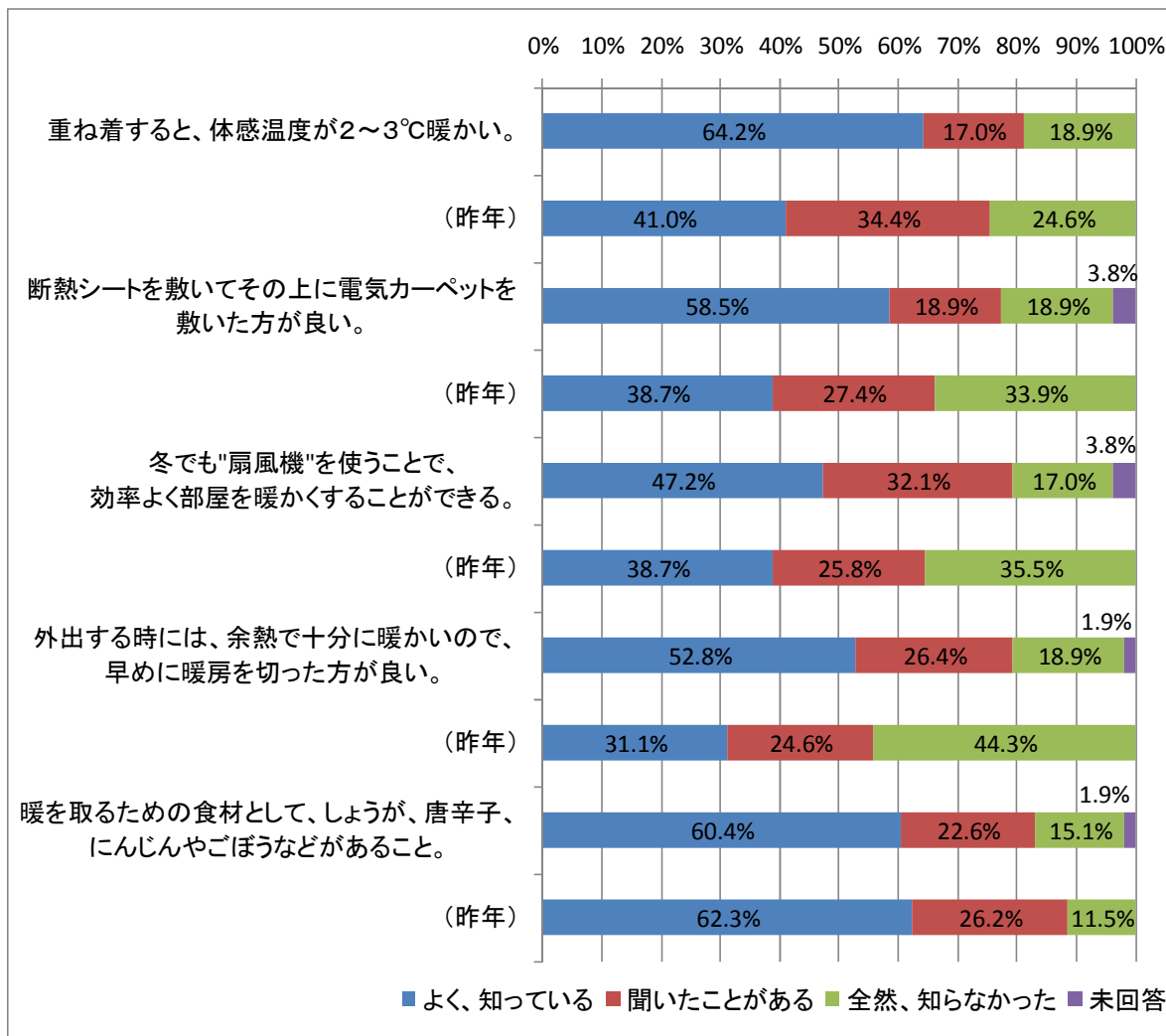
アンケート回収日 10月22日（金）、23日（土）

### 1. 暖房によるCO2排出量に対する認識について



冬の省エネの方が節約効果大きいことについては、7割に近い人が少なくとも多少の認識はあったことがうかがえる。昨年は半数弱の認識であり、今年の方が認識している人が多かった。また、“暖房”“冷房”“給湯”のうち、給湯のエネルギー消費がもっとも大きいことについても、今年は半数弱の人が認識しており、こちらも昨年に比べ認識している人の割合が多くなっている。

## 2. 暖エコライフに対する認識



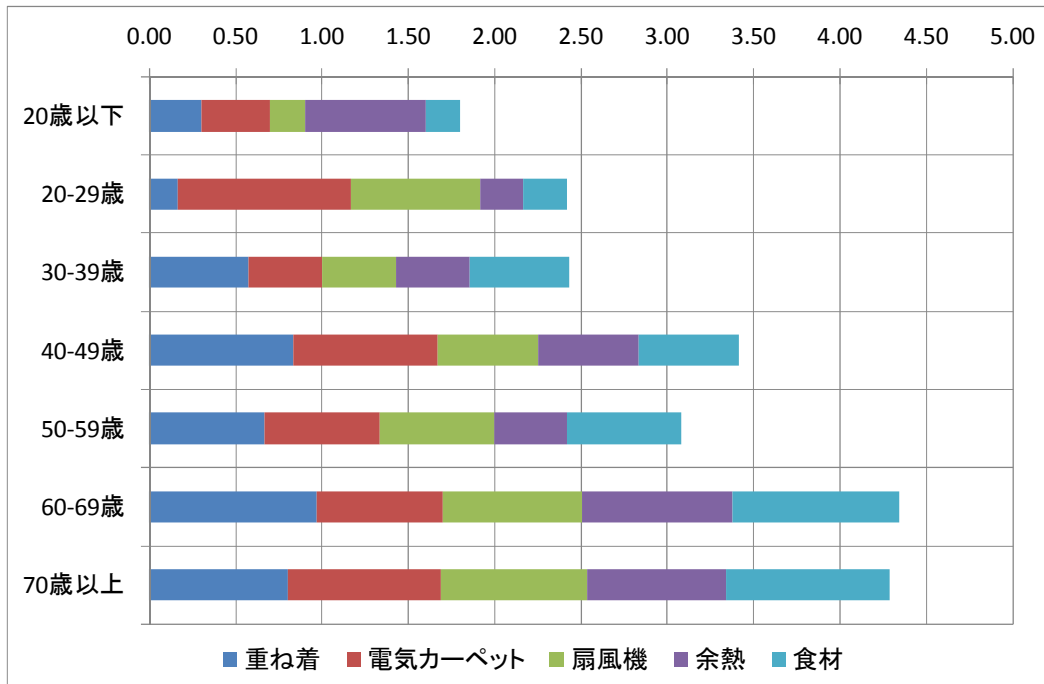
暖エコライフに対する認識では、「食材」についての認識がもっとも高く、83.0%の人が何らかの認識があった。もっとも、他の項目についても8割前後の人で認識があり、項目間の差はあまり認められない。

なお、「よく知っている」に着目すると、「重ね着」が最も多く64.2%、「扇風機の利用」が最も少なく47.2%だった。

また、昨年と比較をすると、「食材」以外の項目では、認識されている割合が大きくなっている。

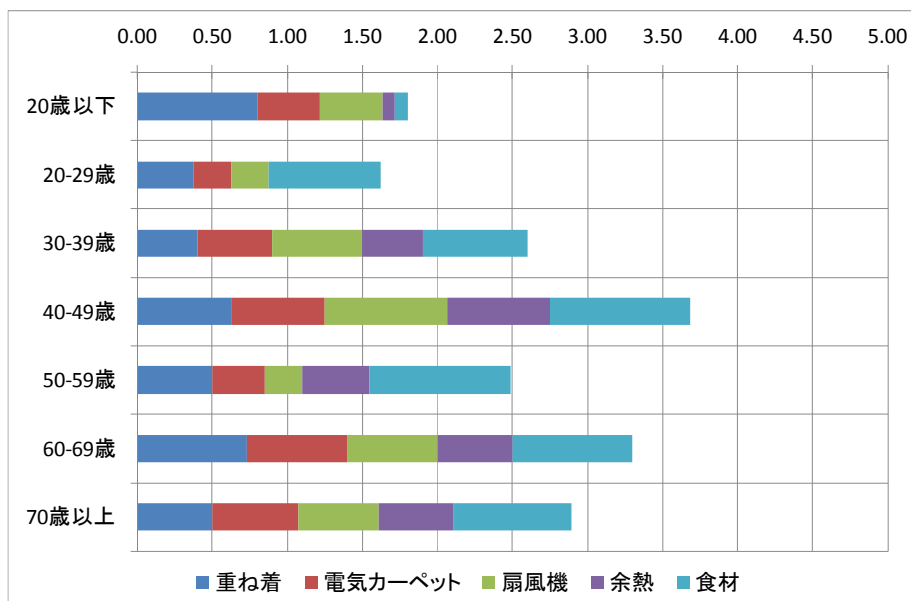
### 3. 年代別の暖エコライフに対する認識

年代別の暖エコライフに対する認識を比較するため、取り組み別の認識の状況を指数化しグラフを作成した。



これを見ると、最も認識が高いのが60-69歳、以下、70歳以上、40-49歳となっている。なお、項目ごとの認識のばらつきは、20歳以下と20-29歳では大きく、20歳以下では「余熱」の認識が、20-29歳では「電気カーペット」「扇風機」の認識が高い。その他の年代では、項目ごとの認識のばらつきは比較的小さい。

(参考：昨年のアンケート結果について、上記と同様の方法で作成したグラフ)



<まとめ>

昨年に対比、CO2の排出原因や暖エコライフに対する認識は高くなっていた。断定はできないが、地球温暖化に対する認識・意識の高まりを反映しているのではないかと考えることもできる。こうした認識を、具体的な実践に結び付けるためのしくみづくりがもたらされるだろう。

以上